

♪♪♪ いい歌、いい町、いい自然 ♪♪♪

No. 500

2004. SEP

広報

# あかいけ

# 9



◎ Since 1950 - **たくさんの笑顔をありがとう**

◎ Special Edition 2 『広報あかいけ』みなさんに支えられて500号!

◎ Special Edition 1 『夢の箱』上野小新校舎完成



# この夏、木の香あふれる学び舎誕生

雄大な福智山に抱かれ、周囲には四百年の伝統を誇る上野焼窯元が点在し、緑豊かな田園風景が広がる上野小学校。自然と文化が調和するすばらしい環境にとけ込んだ新校舎が、ついに完成しました。ここで、その特徴をご紹介します。

## 明るく、やさしく、やわらかな ぬくもりあふれる新校舎

「うあーっ」と思わず声が出てしまいうなすてきな空間です。完成したばかりの上野小学校、第一印象としてまず、その「明るさ」に驚きました。壁面には強化ガラスをふんだんに使っているため、日の光りがさんさんとそそぎ込みます。児童たちはもちろんのこと、ここに来る人みんなが優しい気持ちになる、建物内だけでなく、なんだか心まで明るくなるような、そんな感覚を覚える新校舎です。

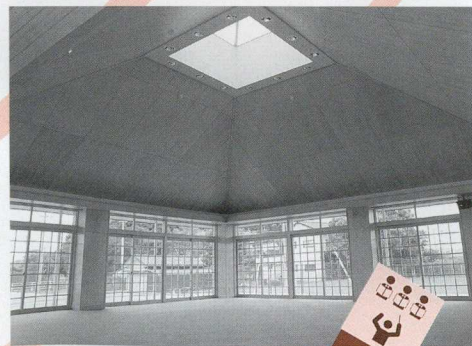
次に感じたのが「木のぬくもり」です。廊下や教室などの床板にはヒノキが張られています。ドアなどの細部も「木」にこだわっていますが、費用の関係上、木造はできませんでしたが、その分、内装で木材を効果的に活用しています。木の廊下を踏みしめ、感触を楽しみながら、ゆっくりと

歩きたくなる。建物全体が、やわらかでやさしい雰囲気をかもし出しています。

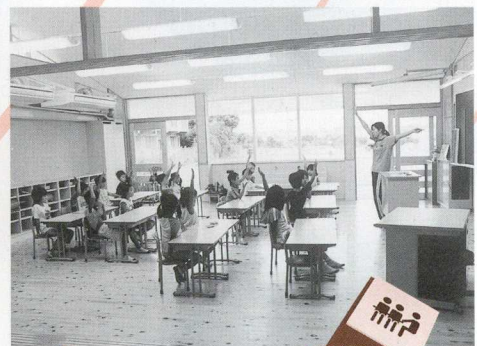
そして「開放感」。広い廊下、2階までの吹き抜け部分、全校児童が一緒に昼食をとることができるランチルームなど、ガラスによる広がり効果も相まって、空間のゆとりを感じる構造となっています。大きな窓から望む福智山の景観も絶景。また、地域開放型の校舎として、ホール、会議室、図書館、体育館など住民のみならず活用しやすい工夫もなされています。

近隣ではみられないような、全国的にも誇ることができ個性豊かな新校舎は、限られた予算と時間の中で試行錯誤し、最大限の効果を生み出すよう造られました。子どもたちの郷土の自慢になるような、毎朝ランドセルをからうのが楽しくなるような、心はずませるすばらしい上野小学校が完成しました。2学期から127人がここで育まれていきます。

↑新しくなった上野小学校校舎の管理棟と教室棟の一部。現在は右側にある旧校舎と体育館の解体工事が行われている。



↑管理棟にあるふれあいホール。児童も住民も多目的に幅広く利用できるスペース。



↑大きな開き戸で開放感ある教室。外にはデッキと足洗い場、中には手洗い場を完備。



## ▲上野小学校新校舎平面図▲

構造規格：鉄筋コンクリート造・地上2階建て

工事費：約7億円（設計・校舎・体育館）

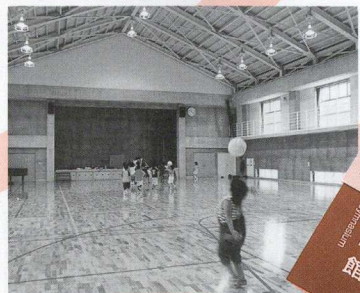
延床面積：3,416㎡（プールを除く）



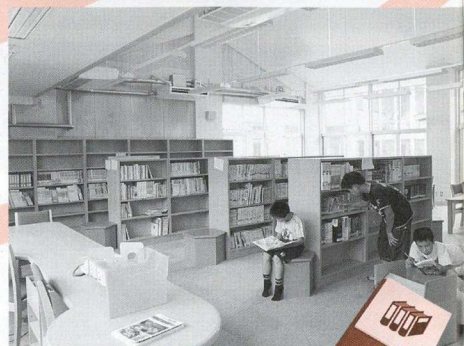
←かがやきホール横には吹き抜けの大空間がある。中庭側が全面ガラス張りである。



↑全校児童と一緒に昼食をとることができるかがやきホール。福智山を一望できる。



→昼間は児童の授業や休み時間、夜は地域住民のスポーツ施設として活躍する体育館。



↑本棚のサイドに腰掛けを置き、学習机も拡張した図書館。奥には畳の部屋もある。

# どうですか？ このロケーション、 福智の山脈やま なみにとけ込んでいます。

役目を終えようとしている校舎に  
たくさんのお思い出がつまっているように  
この新しい校舎にもたくさんのお思い出が込められています。

豊かな自然、美しい景観に彩られた  
やさしい空間が、ここに実現しました。

ゆっくりと時間が過ぎていく  
どこかなつかしい雰囲気漂う  
つつみこむような「夢の箱——」

新学期から一二七人の子どもたちとい  
かけがえのない宝物を迎え入れます。

**私たちは「いつまでも心に残る学校」を目指しました**

「自然豊かな里、陶芸の里、童謡の町を織り込んだ学校建設。環境に優しく、健康的で安全に学ぶことができ、かつ、総合学習にも柔軟に対応できる地域活動の拠点となる学校づくりを——」

13回の協議を経て、平成15年2月に出された上野小学校建設検討委員会の答申には、地域住民の教育に対する願いや理想的な上野小学校像が記されていました。

23人の同委員会が発足したのは平成14年2月。新校舎の建設は、それ以前の準備を含め、3年以上の年月がかかっています。築38年を経過した古い校舎は、雨漏りやコンクリートのひび割れなど問題が多く発生していました。平成14年に行った耐力調査の結果では、ついに「危険である」との結論に達します。行政は魅力ある学校づくりを確実に進めるため、



↑8月4日、夏休みの出校日。引っ越しを終え、初めて教室のイスに座った児童たちは喜びを隠せない様子でした。

プロポーザル方式（技術者評価型）を導入し、設計業者を選定。そのコンセプトは「いつまでも心に残る学校」でした。

配置計画では、歴史ある周辺環境に配慮し、施設を分節化することでスケール感を低減、落ち着いたデザインを基調としました。同時に平面計画では、子どもの個性を育てる多様な学習方法と主体的な学習活動に対応できるよう教育領域を確保。また、管理棟内のふれあいホールなど、将来的な地域の生涯学習環境に対応するため、教室棟と管理区分でき、長く地域に愛される設計としました。そして、施設の様々なところから福智山を眺望できるように工夫し、子どもたちが学校生活の中で自然に地域文化を感じることで、大人になってもふるさとの風土が胸に残っているような学校づくりを心がけました。平成15年10月から着工した工事も順調に進み、こうして待望の落成の日、8月8日を迎えることができました。



↑8月8日の上野小落成式で関係者97人に新校舎内を披露、「明るい」「落ち着いた」などと反響も上々でした。



上野小学校管理棟は、福智連峰のやさしく緩やかなラインに沿った外観が特徴的。見る位置や角度によっては山脈にピッタリとあてはまる。右側に教室棟とグラウンドが広がっている。

児童から、地域から末永く愛され続ける学校建設に向け、検討委員会で協議を重ね、私たちの想いを答申しました。この新校舎の出来栄を見て感激に絶えません。地域から学校内が見え、また、児童が福智山の景観など地域の風土を密接に感じる事ができるすばらしい学校です。ここから河村光陽先生、田中六助先生に続くような、偉大な人材が生まれることを願ってやみません。



上野小学校建設検討委員会  
政光 重敏 会長

## 古里に生まれ 未来へと羽ばたいて欲しい

みなさんの温かいご支援を背に、「木」を主体とした「なつかしさ」と「近代的感覚」を兼ね備えた校舎を念願し、こうしてその希望を果たす事ができました。2学期からここで、子どもたちがまっすぐな瞳で机に向かう姿を思い浮かべるとき、この感激もひとしおでございます。教育は「国家百年の大計」と言われますが、未来を担う子どもたちが、ここから、この町から、大いに羽ばたいて欲しいと願っています。



赤池町  
水永 康雄 町長

